

外部資源を有効に活用した、地域を担う「人財」の育成
～地域に育ち、地域に育ててもらおうキャリア教育～

高齢化率全国平均27.7%のに対し、47.0%の熱海市は少子高齢化に伴う、人口減少等、将来の日本の地域課題を抱えている地域であり、本校は熱海市に所在する唯一の高等学校である。そこで熱海市の課題を自分事と捉え、地域と協働することにより、新たな価値の創造を目指す人材を育成する。

熱海高校、静岡県教育委員会、熱海市役所、熱海市立多賀小学校、中学校、地元企業、熱海伊東法人会、伊豆半島ジオパーク推進協議会を構成員としたコンソーシアムを構築し、総合的な探究の時間や教科横断的な学習を通じて、地域課題等の解決に向けた探究的な学びを進める。

令和元年度の目標

- ・本事業に対する教職員、外部協力者のコンセンサスを確認し、目標を共有することで円滑な事業の推進を図る。
- ・地域連携活動の見える化を行う。
- ・育てたい人材像の共有を行う。
- ・主体性、協調性、探究力を評価するためのツール作成する。

取組状況

- ・地域協働学習実施支援員を活用したコンソーシアム機能の充実
- ・各分掌、学年、類型等で実施している地域貢献活動の共有化
- ・教職員研修による育てたい人材像の共有化
- ・テキストマイニング、アンケート等による評価ツール（ループリックの作成）
- ・県内の教員が参加した成果研究発表会の開催

成果と課題

- ・地元企業の抱える問題を解決するために高校生が課題を考え、取り組む活動を通し、生徒の主体性や協調性が育まれた。
- ・地元に対する理解が深まり、地元企業に就職する生徒が増加した。
- ・成果指標である、「地元に残る、将来戻る」と答えた生徒の割合が目標値に達した。
- ・生徒の変容を見ることにより、教職員の事業に対する意欲・関心が深まった。
- ・地元へ貢献する人たちに対しアンケートを行うことで、地域住民の地元に対する考えが理解できた。
- ・行政との協定書を締結できなかった。